

土岐カルタ 札一覧表

さあ、まずはこのふるさとカルタを、お家で、学校で楽しんでもみましょう。みなさんのふるさとには、カルタに描かれているような「素敵な場所」「おいしいもの」「昔話」などの、他にはない魅力がたくさんあります。カルタで遊んだら、その場所に行って、見て、触れてみることで、もっとふるさとを好きになれるはず！また、カルタには描き切れなかった魅力も、きっと見つかることでしょう。

よ	み	ふ	だ	え	ふ	だ
あ	ありがとう	ここにのこる	わがときし	ときしの	まちなみ	
い	いせみちも	ぜんこうじへも	したかいどう	したかいどう		
う	うちばやし	ほうさくいのりて	ふえたいこ	そぎうちばやし		
え	えどのはな	ふたたびさかす	だちかぶき	だちかぶき		
お	おおとみや	あさのにやかた	ときげんじ	おおとみやかたあと		
か	かくゆうこう	みらいをつくる	エネルギー	プラズマじっけんそうちのなか		
き	きゅうしょくの	われないしよつき	ぜんこくへ	きょうかじき		
く	くすりとは	みのやきいろどる	ゆうやくだ	ゆうやく		
け	けんこうで	みんなながいき	ときたいそう	ときげんきたいそう		
こ	こだからを	ねがいてかなう	ちごのいわ	ちごいわ		
さ	さがせるよ	おりベヒルズで	うつわみる	おりベヒルズのいりぐちのモニュメント		
し	しろいはな	ヒトツパタゴは	ときしのき	ひとつばたごのはな		
す	スカッとさわやか	ときしょう	サイダー	ときしょうサイダー		
せ	せかいはず	ようじゅうかせぎの	いんきよやま	パレオパラドキシア・タパタイ		
そ	そらやまは	ときしていちばん	たかいやま	そらやまのとざんどう		
た	たきがほら	ちいきをみまもる	まがいぶつ	まがいぶつ		
ち	ちいきごと	ちがううつわの	とくさんひん	みのやき		
つ	つばいしは	くのにてんねん	ぎねんぶつ	つばいし		
て	てもくくに	きぜとせとぐろ	しのおりべ	きぜとのまっチャチャわん		
と	ときのとうきか	とうきのときか		ときおんど		
		みんなでおどろう	ときおんど			
な	なごやいき	くだっていくのに	のぼりとは	ときしえき		
に	にしひがし	ちゅうまかいどう	うまとおる	ちゅうまかいどう		
ぬ	ぬれもみじ	うつりてみこと	そぎこうえん	そぎこうえんさかさもみじ		
ね	ねばねばの	とろろじねんじょ	あじじまん	とろろ		
の	のだてせき	ちゃのゆをかたる	もとやしき	「おりべのさところえん」ののぼりがまとおおがま		
は	はるかなる	いせわんながめる	みくにやま	みくにやまからみたあいちけんのふうけい		
ひ	ひょうきんな	とっくりととくん	さがそうよ	とっくりととくん		
ふ	ふうみよし	たけがわようかん	ときみやげ	たけがわようかん		
へ	へうげもの	このむおりべは	みののひと	おりべやきのてばち		
ほ	ほんしきの	おちゃせきあじわう	ぼせつあん	ぼせつあん		
ま	まちつなぐ	せんろのあとを	ハイキング	だちせんあと		
み	みのやきは	つちとほのおで	にほんいち	みのやきのせいさんりょう		
む	むかししろ	いまきよらかな	ときがわへ	ときがわ		
め	めをみはる	おとづかこぶん	いしのへや	おとづかこぶん		
も	ものしずか	あなこうぼうの	じそうさん	あなこうぼう		
や	やっとかめ	いわれてかんじる	わがこぎょう	とうのうべん		
ゆ	ゆらゆらと	からだをいやす	ゆのかおり	かきのおんせん		
よ	よのれぎし	かたりてつなぐ	しろのあと	つまぎじょうさむらいやしきのいしがき		
ら	らくらくと	とうざいなんぼく	こうそくどう	ときジャンクション		
り	りりしくも	うまにまたがり	かけあがる	はちまんじんじやのやぶさめしんじ		
る	るりいろの	うつわさがして	みちのえき	みちのえきどんぶりかいかん		
れ	れきだいの	めいしやがそろろ	きゅうしゃかん	きゅうしゃかん		
ろ	ロータリー	ちいきにほうし	よきなま	ときロータリークラブのロゴ		
わ	わがまちの	ほのおのさいてん	なつまつり	「ときしおりべまつり」のはなび		
を						
ん						

箱デザイン：岐阜県立土岐商業高等学校
2年D組 梅村 利桜那
札デザイン：岐阜県立土岐商業高等学校
2年B組 佐伯 さくら
2024年7月

制作：土岐ロータリークラブ Rotary
私たち土岐ロータリークラブは、地域に根差した事業を通して土岐市の健全な発展に寄与することを目指し、活動しています。



Rotary
制作：土岐ロータリークラブ

土岐市

どうか皆さんが大人になっても、この「土岐市」には、かたに描かれた様々なくさんの魅力（歴史・伝統文化・自然・史跡・名勝地・特産物等）がある事を忘れないで下さい。そしてそんな素晴らしい環境の中で、かけがえない人たちと出会い、暮らし、育ったわがまち「土岐市」にいつまでも愛着を持ってくれますように。・・・君たちよ、幸せであれ！

核融合科学研究所

安全で環境にやさしい次世代エネルギーを研究する大学共同利用機関として、平成元年（一九八九）五月名古屋に設立され、平成九年（一九九七）七月下石町へ移転、ヘリカル型のプラズマ実験装置が設置され、核融合によるエネルギー創出研究を中心に進めてきました。

核融合科学研究所

今後も、新たな核融合科学の学術的拠点としての役割を果たしていきます。

織部ヒルズ

昭和五年五月第 次入居で二八社が集まり、協同組合「岐阜美濃焼センター」が開業。五四年二月の第六次で〇社で増加、美濃焼の流通拠点として大きな役割を担ってきました。毎年五月の土岐美濃焼まつりは、三天陶器まつりとして多くのお客様が集まります。現在、織部ヒルズと呼ばれ、道の駅と岡地内の一二社が一顧客への販売もしています。

滝が洞（摩崖仏）

駄知から肥田へ流れ出る肥田川が生んだ渓谷。明治時代に発刊された岐阜県案内には土岐郡三岐の一と記される。肥田側には、庄屋林五右衛門宛願により昭和七年（一七七〇）に制作された役行者（像高二、二五尺）の摩崖仏、西国三十三ヶ所観音像、八十八弘法などがあり、駄知側には子護観音、御嶽教行者碑など、全体が信仰の場所となっています。

土岐市駅

中央西線は明治三年名古屋から多治見まで開通。三五年（一九〇二）二月に中津川まで延伸され、土岐駅が開業しました。四四年に木曽福島・宮ノ越間が繋がり、中央本線が全線開業。土岐津駅は昭和四〇年土岐市駅と改称。大正一年開業の駄知鉄道線も、昭和三年には土岐津駅へ乗り入れました。

三国山

美濃・尾張・三河の三国境に位置し、標高七〇一尺。山頂に展望台があり、アルプスや御岳、白山、名古屋港などの大パノラマが開けます。岩村出身の下田歌子（日本の女性教育先駆者・実践女子学園創立者）が明治四年上京した際、麓を通り詠んだ「麓錦着てかへらすは三国山また再びは越えしと思ふ」の歌碑も建ち、キャンプ場も設けられています。

駄知線跡

中央線土岐津駅と駄知を結ぶ鉄道。籠橋休兵衛ら駄知町の経済人が中心となって敷設。大正一年（一九一二）に新土岐津・下石間、翌年駄知町まで開業。以後約半世紀、陶磁器の原料燃料、製品などの貨物輸送も含め、地域発展に多大な貢献をしました。昭和四七年土岐川鉄橋の流失で運休。四九年廃線となり、跡地の多くは遊歩道として整備されました。

東濃弁（やととかめ）

「やととかめ」の意味は「ひさしぶり」です。その由来には「人の噂も七五日の七五日より長い八〇日は噂も立たなくなるほど久し振り」という意味で「八十日目が訛った」という説があります。また「約十日目」が訛ったという説や「ようやく、ついで」の意味を持つ「やと」と（やあつと）が訛って「やととかめ」になったという説など諸説あります。

中央高速道・東海環状自動車道

平成一七年（二〇〇五）土岐ジャンクションが供用され、東西を走る中央高速道と南北方向の東海環状自動車道が結ばれました。また、中央道には土岐インター、環状道には土岐南多治見インターと五斗時スマートインターの三か所の出入口があり、車の往来には大変便利なところとなりました。

織部まつり

土岐市駅前地区で開催される夏まつり。毎年、土岐川河岸には多くの出店が並び、市民参加のステージイベントや駅前通りでの盆踊り大会などとともに、連続して打ちあがる四〇〇〇発の壮大な花火大会を市民が楽しめます。

土岐市が誕生して以来続く、地域の名物

行事

下街道

尾張名古屋から中山道・横ヶ根追分をつなぐ脇街道。尾張藩が小牧・津市で中山道伏見宿への街道を上街道（木曾街道）としたのに対し、下街道とよび、より平坦で距離も短く庶民に広く利用されました。西行きをいせ道、東へは善光寺道ともいう信仰の道でもあります。中間に位置する高山村は、宿場・荷籠ぎ場の役割を担い、賑わいました。

強化磁器

従来の磁器原料成分にアルミナを配合して、より割れにくくした器を強化磁器といいます。土岐市陶磁器試験場ではそれをさらに強化して、昭和六一年に給食用として高強度磁器を開発。業界に技術指導をしてきました。これらの食器は、主に学校や高齢者施設、病院、ホテル、レストラン、社員食堂などの業務用食器として提供されています。

ヒトツバタゴ

シデコシヤやハノキ同様、東海丘陵要素植物といわれる地域を代表する植物のひとつで、なんじやもんじやとも呼ばれます。国内の自生地は、長崎県対馬の他、岐阜、愛知、長良の一部だけで、泉町大富の白山神社境内の自生木は、国天然記念物に指定。五月頃に雪のような白い花をつけ、「土岐市の木」に指定されています。

美濃焼の特産

この地域のやきものは、古くからの技術の伝承があり、競合を避ける意味からも、せん茶碗（土岐津・泉、小皿（肥田、どんぶり（駄知）、徳利（下石）、コーヒ碗（妻木）など、地域により特産品がうまれてきました。また、駄知町の塚本快示さんは、青白磁の技術が認められ人間国宝に指定されました。

中馬街道

中馬とは馬をばい荷物を運ぶ人やことをい、信州の農民が自分の荷運びから、副業として駄賃稼ぎを始め、次第に專業化した。中馬は付通って目的地へ直接荷を運びます。飯田と名古屋を結ぶトの曾木、鶴里の街道は、多くの中馬が行き交い、牛宿、馬宿の跡や、馬観音、道祖神などの石造物も多く残されています。

下石とつくりとつくくん

下石町は江戸時代から続く徳利の生産地です。この町では、岡岡山地区の窯元の若者たちが制作したゆるキャラ「とつくり とつくくん」が、街のあちこちに約一六〇体遊んでいます。愛らしい表情の「とつくくん」を捜しながら窯元を訪ねてお気に入りの陶器を見つけましょう。

美濃焼生産量

美濃焼は、須臾器から一四〇年に及ぶ歴史を持ち、江戸時代には日用食器の生産が本格化。明治以降、技術開発が進み量産体制を整えて大きく発展しました。土岐市を中心に生産される美濃焼は、食器関係では事業者数で全国の約二〇％、生産量の五〇％、出荷額では四〇％をえる、全国一の生産地となっています（二〇一九年現在）。

柿野・山神・曾木温泉

市内ではこれらの温泉が、古くから傷や病を癒す人々に利用されてきました。温泉に関する伝承や、効能を記す書物には、曾木は熱湯であったという記録もあります。現在は冷泉ですが、いずれも叫九・六以上のアルカリ性放射能泉とされており、柿野・山神では料理旅館、曾木では入浴施設が営業を続けています。

流鏑馬（八幡神社）

妻木町の八幡神社で毎年一〇月第一日曜日におこなわれる流鏑馬神事は、元和九年（一六三三）妻木家頼が武運祈願のために鹿野所を造営し、馬頭を献上したことから始まったとされています。このために選ばれた六名の小学生が、陣羽織等の衣装に身を包み、一三〇分の坂道を馬で駆け上る姿は圧巻です。

土岐市無形民俗文化財

約三七〇年前に三河岡崎から伝わったとされ、神社・例祭や盆行事などで、地域の人々が豊饒を祈り、娯楽のひとつとして長く伝えられました。竹笛、太鼓、拍子木で編成され、子供たちも学校で学び、保存会でも大切に伝承しています。濃南地区には中馬馬子唄もあり、中馬の文化、歴史や伝統を大切に残しています。

土岐・商サイダー

東濃地方で「くすり」とい

東濃地方で「くすり」とい

土岐市無形民俗文化財。約三七〇年前に三河岡崎から伝わったとされ、神社・例祭や盆行事などで、地域の人々が豊饒を祈り、娯楽のひとつとして長く伝えられました。竹笛、太鼓、拍子木で編成され、子供たちも学校で学び、保存会でも大切に伝承しています。濃南地区には中馬馬子唄もあり、中馬の文化、歴史や伝統を大切に残しています。

釉薬（うわぐすり）

東濃地方で「くすり」とい

土岐・商サイダー

令和三年度には土岐商業高校の生徒たちが、千古乃岩造と共同してこの地サイダーとしてラベルを考案、商品化。地下四五センチ上だけ超軟水でつくった体にやさしく、のどごしあけやかな飲料です。サイダーを使った写真コンテストなどもあり、取扱店も増えて話題となり、地域活性化に貢献しました。

壺石

神明峠の南一帯で産出する壺石は、鉄分を含む珪質と小石が固まってできた塊状の石。白い粉状、カオリナイトなどの内容物を取り除き、一輪挿しや植木鉢などに利用、観賞用にも珍重されてきました。この地域は諸条件が重なり、特に多量に産出することから、昭和九年（一九三四）一月に、国の天然記念物に指定されています。

曾木公園（逆さもみじ）

曾木公園は数十本のもみじの名所として知られています。地域の人々が紅葉シーズンに、池を掃除して水を張り、ライトアップをして、水面上に映る見事な逆さもみじの景色を止めたことが人気を呼び、多くの観光客が訪れるようになりました。地域の高齢化が進み、事業の継続が課題となっています。

竹皮羊羹

市内の和菓子店で作られる、竹皮で包まれた蒸し羊羹。甘さ控えめ、ほのかに竹皮の香りを伝える逸品です。全国菓子大博覧会金賞受賞の專業メーカーもあり、二〇〇年以上の長い歴史を持つ、土岐市を代表する名物、お土産です。

土岐川（肥田川・妻木川）

市内に降る雨は、肥田川・妻木川を両軸にして、南部から北部へ流れ、東西に流れる土岐川に合流、伊勢湾へと流れいきます。当地では、土で白く濁った川筋は、陶磁器産地の景気の反映といわれ当り前のことでしたが、流域の環境問題もあって改善され、現在では、水鳥たちも憩う、清らかな水流となりました。

妻木城・高山城

市内には、戦国時代に山城（砦）として利用されたと思われる城跡が数か所あります。中でも、妻木城は土岐明智氏から妻木氏、高山城は高山氏、平井氏などが居城とし、地域支配の拠点だったと思われます。他にも、細野城は中馬街道を見張る要衝としての役割を果たしたと見られています。

道の駅（どんぶり会館・志野織部）

どんぶり会館は御嶽山や中央アルプスを望むローションに、蓋をしたどんぶりをイメージしてつくられた道の駅です。中には食器や陶器など地元生産の陶磁器や近郊のお土産が並んでいます。志野織部は大きな三角形の屋根と窯元のシンボルである煙突が目を引く、志野・織部・黄瀬戸の数々の名品が焼かれた土岐を象徴する道の駅です。

とき元気体操

土岐市による「ときぎんきプロジェクト」から生まれた体操。子供から高齢者までできる「とき元気体操」でいつまでも元気で楽しく過し、健康寿命を延ばしましょう。テーマは、円、円の動き、三国山や、土岐川、陶器作りに関する動きも取り入れています。

土岐市による「ときぎんきプロジェクト」

土岐市による「ときぎんきプロジェクト」

昭和三年度生まれの世代が、同年会行事の出し物として演じたのをきっかけとして、地域の子どもたちも参加し、保存会がつけられました。地元の劇場で、昭和中期頃まで娯楽として楽しまれていたという歌舞伎を復元し、現代版東濃地歌舞伎のひとつとして活動が続けています。

とき元気体操

土岐市による「ときぎんきプロジェクト」から生まれた体操。子供から高齢者までできる「とき元気体操」でいつまでも元気で楽しく過し、健康寿命を延ばしましょう。テーマは、円、円の動き、三国山や、土岐川、陶器作りに関する動きも取り入れています。

土岐市による「ときぎんきプロジェクト」

昭和五年（一九一〇）一〇月、高校生が自宅近くの隠居山で、世界で初めて発見した、デスモスチルスに類する一七〇〇万年前の恐獣の全身骨格化石。一三〇〇万年前に絶滅した水辺に暮らした哺乳動物の幼獣とされ、現物は東京・科学博物館に展示。後に、パレオパードキシア・タバタイと命名されています。

桃山陶

久尻元屋敷窯（大窯）では、安土桃山時代の茶陶文化を支えた、天目、黄瀬戸、瀬戸黒、志野などの新しいやきものが次々と生まれ、美濃桃山陶の中心地となりました。さらに、江戸初期の連房式登り窯では織部焼がやかれ、これらの美濃を代表するやきものを作り出した功績から、加藤景延は美濃焼の陶祖とされています。

自然薯

土岐市とその周辺地域では、山に入り自然薯を掘り、貴重エネルギー源とする食文化が長く続いてきました。正月二日には自然薯を食す、「二日ところ」という習慣もあり、自然薯堀は、一家の主人の重要な役割で楽しみでもありました。最近では勝手に入山できませんが、地域の生活文化として大切にしていきたいものです。

古田織部（織部焼）

古田織部は美濃出身の戦国武将ですが、茶道や茶器など芸術を愛するへうげもの（ひょうげもの）と読み、ひょうき者、おどけたことを言う人の意でした。古田織部が好んだ奇装で斬新な形や文様の茶器は、戦国時代に流行し、茶湯の世界を変革しました。後に美濃焼を代表する織部焼につながります。

乙塚古墳・段尻巻古墳

乙塚古墳は、泉町久尻にある美濃地方最大級の横穴式石室を持つ大型古墳で、段尻巻古墳とともに国指定の史跡となっています。造営は飛鳥時代（七世紀前半）で、東濃地方を治めていた豪族の墓でした。この古墳はその後、陶工たちの工房等として再利用されたり、陶器作りの神（陶祖神）を祀る等、窯業に関連する折りの場となった時期もありました。

六弘法

六弘法は土岐津町に二か所あり、高山城跡東にある穴弘法は、今春戦のあった戦国時代の兵士たちの霊を弔い、江戸期には寺がおかれ、明治時代に再興されましたが、後に廃寺。現在残された一〇四体の石仏を、地元民・史跡保存会が大切に供養を続け、秋には紅葉ライトアップもされています。もう一か所は大洞にあります。

暮雪庵

名古屋覚王山にある旧松坂屋創業家・藤家の別荘「楊柳荘」から寄付を受け、市内篤志家の協力を得て、平成一六年五月現在地へ移築された茶室。手水鉢として庭にあった四方仏踏踏石千利休所蔵のものであったことを示す、裏千家、四世千宗室の書状もあり、屋根の拝堂に展示保管されています。

ロータリークラブ

ロータリークラブは国際的な社会奉仕団体で、二〇〇を超える国や地域に存在しています。一九〇五年にアメリカのシカゴで創立され、日本では、一九〇年に初めて東京に創立されました。土岐ロータリークラブは様々な社会奉仕活動を行ったり、土岐商のインテーククラブの支援をするなど地域社会の為に活動しています。

美濃源氏 土岐氏

平安時代末期、美濃へ来た源氏の一党が、東濃に拠点を置き土岐氏を称して、鎌倉幕府に従い美濃全体に勢力を伸ばします。土岐頼貞は、足利尊氏の片腕となり、室町幕府誕生に貢献、美濃守護に任ぜられ、一族はさらに尾張や北伊勢も広がります。鎌倉から室町初期にかけて、土岐氏は浅野や大富に館を構え、定林寺も建立しました。

稚児岩

駄知・肥田町境の川沿いにある大きな岩。昔、子供のいない夫婦が、滝が洞の岩陰に観音像を祀り祈っていたところ、この岩のふもとから子の鳴き声が聞こえ、子供に恵まれたという伝承からこの名が付きましました。流れ出る水が谷を削り、地中から現れて残った「捨て子石」ともいわれ、高さ一八尺、重さ一三、二〇と推定。土岐市天然記念物。

土岐音頭

土岐の陶器が、陶器の土岐で、始まる夏の風物詩「土岐音頭」は、土岐市が誕生した昭和一〇年に公募によって作られた盆踊りです。いにしえより、まちの主産業であり伝統文化でもあった「やきもの」にまつわる事柄を情緒ある歌詞や覚えやすい振付に盛り込み、今でも各町内や学校で、夏の盆踊りとして踊り継がれ市民に愛されています。

織部の里公園・元屋敷窯跡

国指定史跡の元屋敷窯跡の周辺は、作陶体験施設や茶室暮雪庵などがあり、ヒトツバタゴや花菖蒲など季節の花も見られる。市民が憩う「織部の里公園」として整備されています。公園の東屋を利用して、野点の行事も開催され、市外近郊からも「一服を楽しむ」多くのお客様をお迎えしています。

土岐市が誕生して以来続く、地域の名物

行事